

平成23年6月20日

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス
 代表取締役社長 北 野 俊
 (J A S D A Q コード番号: 7623)

問 い 合 せ 先
 常務取締役管理本部長 古川 晴 男
 TEL(045)473-1211 (代表)

平成23年4月期業績（連結・個別）の通期業績予想との差異に関するお知らせ

平成23年4月期（平成22年5月1日から平成23年4月30日まで）の業績につきまして、平成22年6月18日付「平成22年4月期決算短信」にて公表いたしました通期業績予想と差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成23年4月期通期連結業績予想との差異等

(1) 通期(平成22年5月1日～平成23年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 公 表 予 想 (A)	31,000百万円	350百万円	300百万円	180百万円	56円58銭
今 回 公 表 実 績 (B)	31,652百万円	314百万円	280百万円	126百万円	39円90銭
差 異 (B) - (A)	652百万円	△35百万円	△19百万円	△53百万円	—
差 異 率	2.1%	△10.0%	△6.6%	△29.5%	—
(ご参考) 前期実績(平成22年4月期)	30,475百万円	218百万円	207百万円	149百万円	47円00銭

(2) 差異の理由

売上高については、石油製品販売部門では、主力商品であるガソリンの販売数量は需要後退の影響により計画を下回りましたが、大口需要家向けの軽油及び灯油の販売数量が計画を上回ったこと及び期を通じて原油価格が高値圏で推移したことにより燃料油全般の販売単価が期初予想を上回ったため通期予想を上回りました。

自動車販売部門では、エコカー減税や補助金制度の実施により年度の前半では低燃費車を中心に国内の新車販売台数は前期比プラスに転じましたが、当社グループが運営するBMW車を中心とする3ブランドの輸入車販売は、それら施策の対象とならず、新車販売は苦戦を強いられました。各ブランドで投入された新車種の販売に注力し、特にBMW車の新車販売台数は前年実績を上回りましたが、中古車販売及び整備等は計画に届かず、カービジネス全般では計画を下回りました。

不動産関連部門は、引き続き堅調に推移し、通期予想を下回りましたが、グループ全体への影響は軽微でありました。

その結果、当期の当社グループの連結売上高は31,652百万円（前年度比1,176百万円増加）となり、公表予想を652百万円上回りました。

利益面では、石油製品販売部門ではSS(サービスステーション)間の価格競争は依然として激しく、原油価格の上昇等により仕入価格の変動が激しかったことも加わって、マージン確保が難しい営業を強いられました結果、利益面では終始厳しい状況下に置かれました。

自動車販売部門でも、ディーラー間の価格競争は厳しい状況に終始しましたが、マージンの確保や販売経費の圧縮に努め、ほぼ通期予想値を確保しました。

また、グループを挙げての経費削減に取り組んだ効果もあり、前期実績から改善しましたものの、営業利益は314百万円、経常利益は280百万円となり、それぞれ計画を下回りました。

当期純利益は、固定資産除却損失等特別損失の計上と法人税負担が増加したこと等より126百万円となり、通期予想に対しマイナス53百万円の差異が生じました。

2. 平成23年4月期通期個別業績予想との差異等

(1) 通期(平成22年5月1日～平成23年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想(A)	16,800百万円	100百万円	210百万円	80百万円	25円15銭
今回公表実績(B)	17,692百万円	△31百万円	143百万円	112百万円	35円45銭
差異(B)－(A)	892百万円	△131百万円	△66百万円	32百万円	—
差異率	5.3%	—	△31.7%	40.9%	—
(ご参考)					
----- 前期実績(平成22年4月期)	16,169百万円	13百万円	114百万円	115百万円	36円42銭

(2) 差異の理由

売上高については、石油製品販売部門において、大口需要家向け軽油・灯油販売数量が増加したこと及び原油価格の上昇にともなって、燃料油全般の販売単価が期初予想を上回ったため通期予想を大幅に上回りました。

その結果、売上高は17,692百万円となり、通期予想を892百万円上回りました。

利益面においては、石油製品販売部門の価格競争は依然として厳しく、利鞘の縮小を余儀なくされたこと、環境車検部門の売上が車検取扱い数及び自動車エンジン洗浄機販売数の未達成により計画を下回り、営業利益は通期予想を大幅に下回り、31百万円の損失を計上し、差異が生じました。

経常利益は、子会社からの配当金・手数料収入などがあり、143百万円となりましたが営業損失をカバーするまでには至らず、予想との差異が生じました。

当期純利益は、貸倒引当金の戻入れ益等により予想を上回る112百万円となりました。

以上